

# 大学院人間学研究科 18人が「修士論文 修了発表会」に臨む

「EFTタッピングセラピー」  
を指導する梶原准教授



クイズ形式で環境問題を教える  
細谷さん（ホワイトボード前）  
に大きな反応

本学人間学部の卒業生で、大学院に進み『加速度センサーを用いた身体運動時の感情の定量的測定に関する検討』をテーマに修士論文を仕上げた舟木さんは、データを集めることが大変だったが、誰もやっていないテーマに取組み、新しい治験を行うことで結果をみることで良かった」と作業の苦勞を振り返り、成果を喜びました。

関根佐也佳、半井貴大、舟木周平、大久保美香、上條峻太郎、郡司惇史、小井健次郎、五井仁美、杉浦昌子、関口友美、屋間弓子、森塚山田恵里。

西尾博行人間学研究科委員長は「保育学・社会福祉学・心理学・臨床心理学、各コースによって論文作成のプロセスは違うが、修士号を取ることは新たなスタートを

するということ。ここで学んだことをさらに発展させ、将来に生かしてほしい」とエールを送りました。

大学院人間学研究科での学びの総括「修士論文修了発表会」が2月7日、ふじみ野キャンパスで行われ、次の院生が各自のテーマに沿って発表しました（敬称略）。

近藤美鈴、中村久美子、茂田郁美、稲葉洋介、賀薺



2年間の学びの結果を  
発表する舟木さん



院生にエールを送る西尾人間学研究科委員長